

土壌動物の紹介：サンショウウオの餌を中心に

吉田 譲（土壌動物写真家・㈱PCER）

土壌動物とは、落ち葉や土の中で暮らす動物の総称で、原生動物やクマムシなどの0.2mmにも満たない小型土壌動物から、モグラやミミズなどの巨大な土壌動物まで様々な動物群が含まれる。伊原・藤谷（2005）などにおいて、その中間のサイズである0.2mm～数cm程度の中型、大型土壌動物は、止水性のカスミサンショウウオの餌として多く挙げられており、内顎綱（トビムシ、コムシ、カマアシムシ）や蛛形綱（ダニやクモ、カニムシやザトウムシなど）、等脚綱（ワラジムシ、ダンゴムシなど）、ヤスデ綱、ムカデ綱、昆虫綱、ミミズ綱など、土壌動物の中でも特に多くの動物群を含んでいる。

上記の中型、大型土壌動物は日本産土壌動物 第二版：分類のための図解検索（青木，2015）などによってかなり多くの動物群について同定ができるようになったものの、その小ささゆえに観察が困難であり、またカラー写真の資料が少ないため同定するうえで重要な“アタリ”をつけることが難しい。

本講演では、私が今まで撮影してきた土壌動物、特に資料の少ない動物群について写真を紹介するとともに、季節ごとの特徴や体サイズ、動きなど、今まで観察してきた経験を踏まえてサンショウウオの餌として考えたときの印象を発表する。



ザラタマゴダニ属の一種 体長約1mm



ナガコムシ科の一種 体長約2.2mm



エダヒゲムシ目の一種 体長約2.5mm



アカイボトビムシ属の一種 体長約2.8mm



ニホンアカザトウムシ 体長約3.8mm



ナミコムカデ科の一種 体長約4.2mm



ヒメミミズ科の一種 体長約5.6mm



オオコケカニムシ 体長約7.1mm



セグロコシビロダンゴムシ 体長約8.6mm



ニホンヒメフナムシ 体長約9.8mm



シロハダヤスデ属の一種 体長約10.3mm



ツメナシミドリジムカデ 体長約11.5mm